三、閉会中に於ては、

第二日目に於て問題になつたと云ふのは、何と云つても無産政黨組織問題であつた。労働組合、代付部想案中改正の件が第四日目に審議された事は聯盟が如何に實際的であるかを裏書きしたる様な氣分がした、

無産政黨に關しては、何等討議が行はれた、其の提案の理由の概略を述ぶれば——普選が實施されて了つて居ることになると何れも選擧権を得ることになる、労働組合は選擧をやる上に於て之の進むべき道は議会組織を是認する議会否認直接行動の二つしかないのである。是れは全く

徹底を是認して居る様政治上に對する批判を利用すると云ふ事は異なる。他の組合に於ては無産政黨組織運動に對しては、余程進んで居ると云ふ事に立脚して居る。

結局労働黨を組織する事には、賛成であるかそれに對して私共部、政治部に於て宣傳なり研究をなして、然れ共本部の政治部に於て段々として研究をつゞけると云ふのであります。||

其の運動に對しては、無産政黨とは穩當なる労働黨と命名したのである。皇室中心主義を成功する為、色んな議論の勝者派が、尚無産政黨組織運動に付き考慮したり或は傑